

胎児治療のホームページに関する研究

研究協力者 遠藤 誠之 大阪大学医学部 産婦人科 講師
研究分担者 和田 誠司 国立成育医療研究センター
周産期・母性診療センター胎児診療科 医長

研究要旨

胎児治療についてのホームページを作成し、現在臨床応用されている胎児疾患、臨床試験が行われている胎児疾患、今後臨床応用が期待できる胎児疾患について、医療関係者および一般患者に適切な情報提供を行う。英訳ホームページも作成することで、海外へ日本の状況を発信し、互いに連携を深める。胎児治療の適応症例を効率的に集約・紹介していただくネットワークを作る。また胎児治療症例の集計をホームページ上で行えるようにして、データの蓄積できる体制を整える。さらに、それらを通じて胎児治療法の有効性・安全性のエビデンスを確立する。

共同研究者

左合 治彦 国立成育医療研究センター
小澤 克典 国立成育医療研究センター
杉林 里佳 国立成育医療研究センター
村越 毅 聖霊浜松病院
石井 桂介 大阪府立母子保健総合医療センター
室月 淳 宮城県立こども病院
高橋雄一郎 長良医療センター
三好 剛一 国立循環器病研究センター
市塚 清健 昭和大学
中田 雅彦 川崎医科大学
住江 正大 福岡こども病院

A．研究目的

胎児治療についてのホームページの作成を通して、医療関係者および一般患者に対して、胎児疾患についての適切な情報提供を行う。それによって、症例を集約するネットワークを確立する。

B．研究方法

日本胎児治療グループのホームページ（<http://fetusjapan.jp/>）を基盤として、英訳ホームページの作成および胎児治療症例をホームページ上で登録できるようにして、データ蓄積できる体制を整える。

C．研究結果

改訂した日本胎児治療グループのホームページ（<http://fetusjapan.jp/>）に、英訳ホームページを作成した。2014年8月にシンガポールで行われた、10th Asia Pacific Congress in Maternal Fetal Medicine (APCMFM)において、アジア各国の胎児治療施設が共同して、グループを立ち上げるための会合が行われたが、その席上で日本の胎児治療の現状を紹介する際に、本ホームページを紹介し、アジア各国でも同様のホームページ作成を行い、互いにリンクすることを提案したところ、今後の検討課題として採択された。

また、日本全国で行われている胎児治療

の現状を効率よく把握する手段として、本ホームページ上に、個人情報を省いた上で、症例登録が行えるように入力ページを新たに作成した。また、内容を適時最新にアップデートした。

D . 考察

日本の胎児治療の現状を海外へ発信する手段として、ホームページは有用であった。症例登録用ページは、日本の胎児治療の現状把握に役立つことが期待される。

E . 結論

ホームページの作成は、胎児治療症例を適切な時期に、適切な施設へと集約する為に有効な手段であると考えられる。さらに英訳ホームページを作成することで、国内だけではなく国外へも情報を発信していくことができた。今後、症例登録用ページによって日本の胎児治療データの蓄積に役立つことが期待される。

参考：

日本胎児治療グループのホームページ (<http://fetusjapan.jp/>)

F . 健康危険情報

なし

G . 研究発表

1 . 論文発表

- 1) Sasaki A, Sumie M, Wada S, Kosaki R, Kurosawa K, Fukami M, Sago H, Ogata T, Kagami M: Prenatal genetic testing for a microdeletion at chromosome 14q32.2

imprinted region leading to UPD(14)pat-like phenotype. *Am J Med Genet A*. 2014; 164(1):264-6.

- 2) Ishii K, Nakata M, Wada S, Hayashi S, Murakoshi T, Sago H: Perinatal outcome after laser surgery for triplet gestations with fetofetal transfusion syndrome. *Prenat Diagn*. 2014;34(8):734-8.
- 3) Migita M, Watanabe T, Sato K, Ohno M, Takahashi M, Takezoe T, Shimizu T, Yoshida A, Fujinaga H, Ito Y, Sugibayashi R, Sumie M, Wada S, Sago H, Fuchimoto Y, Kanamori Y.: Double duodenal atresia noticed as an intraabdominal cyst in the fetus. *J Ped Surg Case Report* 2. 2014; 200-202.
- 4) Kamei K, Yamaguchi K, Sato M, Ogura M, Ito S, Okada T, Wada S, Sago H.: Successful treatment of severe rhesus D-incompatible pregnancy with repeated double-filtration plasmapheresis. *J Clin Apher*. 2014 Nov 21. doi: 10.1002/jca.21372. [Epub ahead of print]
- 5) Taniguchi K, Sumie M, Sugibayashi R, Wada S, Matsuoka K, Sago H.: Twin Anemia-Polycythemia Sequence after Laser Surgery for Twin-Twin Transfusion Syndrome and Maternal Morbidity. *Fetal Diagn Ther*. 2015 Jan 21. [Epub ahead of print]
- 6) 兼重照未, 荒田尚子, 杉林里佳, 住江正大, 和田誠司, 梅原永能, 三戸麻子, 佐藤志織, 原田正平, 村島温子, 左合治彦 : 油性ヨウ素含有造影剤を用いた子宮卵管造影検査後の双胎妊娠において、一児にのみ胎児甲状腺腫を認

- めた一例（簡潔表題：HSG 後、一児にのみ胎児甲状腺腫を認めた双胎例）．日本甲状腺学会雑誌 2014;5(1):41-4.
- 7) 住江正大, 杉林里佳, 和田誠司, 左合治彦：胎児・新生児の出血・輸血対策 胎児貧血の評価と胎児輸血．周産期医学 2014;44(5):673-5.
- 8) 和田誠司, 杉林里佳, 住江正大, 遠藤誠之, 左合治彦：先天性横隔膜ヘルニアに対する胎児治療．産婦人科の実際 2014;63(5):621-7.
- 9) 和田誠司, 杉林里佳, 小澤克典, 左合治彦：産科手術はどう変わったか？胎児治療に用いられる機材について．産婦人科の実際 2014;63(6):761-6.
- 中国, 2014.11
- 5) 杉林里佳, 太崎友紀子, 岡田朋美, 住江正大, 和田誠司, 木村芳孝, 八重樫伸生, 左合治彦：TRAP sequence 51 例の検討．第 66 回日本産科婦人科学会学術講演会, 東京, 2014.4.18
- 6) 石井桂介, 中田雅彦, 和田誠司, 林周作, 村越毅, 左合治彦：品胎妊娠の胎児間輸血症候群に対する胎児鏡下レーザー凝固術の成績．第 66 回日本産科婦人科学会学術講演会, 東京, 2014.4.18
- 7) 住江正大, 杉林里佳, 小西晶子, 犬塚悠美, 上出泰山, 関口将軌, 和田誠司, 塚原優己, 左合治彦：2nd trimester 以降に診断された胎児リンパ管腫症例の臨床的検討．第 66 回日本産科婦人科学会学術講演会, 東京, 2014.4.19
- 8) 湯元康夫, 笹原淳, 石井桂介, 高橋雄一郎, 左勝則, 和田誠司, 左合治彦, 福嶋恒太郎, 加藤聖子：ダウン症候群に続発する胎児胸水の臨床統計．第 66 回日本産科婦人科学会学術講演会, 東京, 2014.4.19
- 9) 和田誠司, 左勝則, 杉林里佳, 住江正大, 笹原淳, 湯元康夫, 高橋雄一郎, 石井桂介, 左合治彦：日本における原発性胎児胸水の疫学調査．第 66 回日本産科婦人科学会学術講演会, 東京, 2014.4.19
- 10) 犬塚悠美, 杉林里佳, 棚橋あかり, 関口将軌, 住江正大, 梅原永能, 和田誠司, 渡辺典芳, 左合治彦：当センターにおける食道閉鎖症の出生前診断についての検討．日本超音波医学会第 87 回学術集会, 横浜, 2014.5.10
- 11) 棚橋あかり, 和田誠司, 犬塚悠美, 大
2. 学会発表
- 1) Endo M: Intra uterine Management of Fetal Chest Anomalies. 10th Asia Pacific Congress in Maternal Fetal Medicine シンポジウム, Singapore, 2014.8
- 2) Endo, M. Takahashi, K. Miyoshi, T. Tsuritani, M. Shimazu, Y. Fujita, S. Kakigano, A. Taniguchi, Y. Mimura, K. Kanagawa, T. Hosoda, H. Kimura, T. Tamai, K. Yoshimatsu, J.: Immune tolerance induction using chorionic villus sampling (CVS) technique in rodent models. 24th World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology, Barcelona, Spain 2014.9
- 3) 遠藤誠之: 胎児遺伝子治療の現状 .2014 中国周産期医学発展戦略検討会, 北京, 中国, 2014.11
- 4) 遠藤誠之: EXIT 手術について . 2014 中国周産期医学発展戦略検討会, 北京,

- 寺由佳, 杉林里佳, 関口将軌, 住江正大, 梅原永能, 渡辺典芳, 左合治彦: 出生前診断に苦慮した 2 か所の閉鎖部位を有する先天性十二指腸閉鎖の一例. 日本超音波医学会第 87 回学術集会, 横浜, 2014.5.10
- 12) 大寺由佳, 住江正大, 杉林里佳, 関口将軌, 梅原永能, 和田誠司, 渡辺典芳, 左合治彦: 胎児腎盂拡大症例の腎臓超音波所見と生後腎機能予後に関する検討. 日本超音波医学会第 87 回学術集会, 横浜, 2014.5.10
- 13) 遠藤誠之: 先天性横隔膜ヘルニアに対する胎児治療 (FETO) の現状とわが国における今後の展望. 第 51 回日本小児外科学会学術集会・シンポジウム・大阪, 2014.5
- 14) 中田雅彦, 石井桂介, 左合治彦, 村越毅, 高橋雄一郎, 住江正大, 和田誠司, 杉林里佳, 鷹野真由実, 村田晋: 妊娠 26・27 週の一絨毛膜双胎に合併した双胎間輸血症候群に対する胎児鏡下レーザー手術の早期安全性試験. 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 浦安, 2014.7.14
- 15) 太崎友紀子, 松岡健太郎, 杉林里佳, 住江正大, 和田誠司, 左合治彦: 胎児胸水・腹水穿刺における細胞診の検討. 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 浦安, 2014.7.14
- 16) 大野通暢, 金森豊, 清水隆弘, 右田美里, 高橋正貴, 渡邊稔彦, 淵本康史, 和田誠司, 伊藤裕司, 左合治彦: 胎児診断された双胎先天性横隔膜ヘルニアの手術経験. 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 浦安, 2014.7.14
- 17) 和田誠司, 杉林里佳, 住江正大, 五石圭司, 伊藤裕司, 遠藤誠之, 金川武司, 臼井規朗, 左合治彦: 先天性横隔膜ヘルニアに対する胎児鏡下気管閉塞術を施行した 1 例. 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 浦安, 2014.7.15
- 18) 西山深雪, 佐々木愛子, 杉林里佳, 住江正大, 和田誠司, 左合治彦: 出生前診断による胎児染色体異常の診断後のクライアントの意思決定. 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 浦安, 2014.7.15
- 19) 佐々木愛子, 和田誠司, 上原麻理子, 梅原永能, 杉林里佳, 西山深雪, 左合治彦: 無侵襲的出生前遺伝学的検査 (NIPT) である母体血胎児染色体検査導入による侵襲的検査件数の減少. 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 浦安, 2014.7.15
- 20) 遠藤誠之: 胎児治療最前線. 東京麻酔専門医会 リフレッシュコースセミナー 2014・教育講演・東京, 2014.7
- 21) 中田雅彦, 鷹野真由美, 村田晋, 石井桂介, 左合治彦, 住江正大, 和田誠司, 杉林里佳, 村越毅, 高橋雄一郎: 妊娠 26・27 週の一絨毛膜双胎に合併した双胎間輸血症候群に対する胎児鏡下レーザー手術の早期安全性試験. 第 37 回日本母体胎児医学会学術集会, 長崎, 2014.11.7
- 22) 小澤克典, 高橋健, 菱川賢志, 杉林里佳, 和田誠司, 左合治彦: MAPSE, TAPSE を用いた TTTS 受血児における FLP 前後の胎児心機能評価. 第 37 回日

- 本母体胎児医学会学術集会，長崎，2014.11.7
- 23) 佐々木愛子，和田誠司，上原麻里子，梅原永能，杉林里佳，左合治彦：非侵襲的出生前遺伝学的検査（NIPT）導入による各出生前検査の選択の変化．第37回日本母体胎児医学会学術集会，長崎，2014.11.8
- 24) 高橋健，佐々木愛子，谷口公介，須山文緒，村本美華，木野本智子，芝田恵，倉員正光，犬塚悠美，吉田彩，田中里美，大寺由佳，兼重昌夫，菱川賢志，鈴木朋，太崎友紀子，小川浩平，杉林里佳，関口将軌，小澤克典，和田友香，三井真理，梅原永能，和田誠司，小崎里華，伊藤裕司，左合治彦：当院で出生前に13トリソミーと診断された31症例の臨床経過 / clinical course of 31 cases that had a diagnosis of trisomy 13 prenatally in our hospital. 日本人類遺伝学会第59回大会，船堀，2014.11.20
- 25) 松岡健太郎，菱川賢志，高橋健，杉林里佳，小澤克典，和田誠司，左合治彦：胎児心タンポナーゼの一例．第12回日本胎児治療学会学術集会，久留米，2014.11.29
- 26) 杉林里佳，小澤克典，鈴木真，堀越嗣博，松岡健太郎，和田誠司，金森豊，伊藤裕司，左合治彦：胎児巨大仙尾部奇形腫に対して胎児治療を行った2例．第12回日本胎児治療学会学術集会，久留米，2014.11.29
- 27) 和田誠司，杉林里佳，小澤克典，五石圭司，永田公二，笹原淳，臼井規朗，金川武司，日高庸博，金森豊，淵本康史，伊藤裕司，遠藤誠之，左合治彦：先天性横隔膜ヘルニアに対する胎児鏡下気管閉塞術を施行した3例．第12回日本胎児治療学会学術集会，久留米，2014.11.30
- 28) 遠藤誠之：胎児治療の今と未来．堺産婦人科医会学術講演会・教育講演・堺，2014.12
- 29) 小澤克典，杉林里佳，和田誠司，左合治彦：重症大動脈弁狭窄症に対する超音波ガイド下胎児大動脈弁形成術の早期安全性試験．第21回日本胎児心臓病学会学術集会，東京，2015.2.13
- 30) 金子正英，越智琢司，真船亮，佐々木瞳，林泰佑，三崎泰志，小野博，杉林里佳，小澤克典，和田誠司，左合治彦：胎児頻拍を呈した異所性心房頻拍例の検討．第21回日本胎児心臓病学会学術集会，東京，2015.2.13
- 31) 小澤克典，須山文緒，木野本智子，芝田恵，杉林里佳，和田誠司，左合治彦：胎児心機能評価による胎児胸水の予後予測．第21回日本胎児心臓病学会学術集会，東京，2015.2.14
- H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）
1. 特許取得
 2. 実用新案登録
 3. その他

HPを利用した胎児治療症例登録システム ①

メンバー・ログイン画面

新規症例登録画面

HPを利用した胎児治療症例登録システム ②

症例実施日登録画面

症例疾患名入力画面

HPを利用した胎児治療症例登録システム ③

全症例数表示画面

年間全メンバー集計画面

情報入力 疾患別年間データ

症例別年間データ

現在 匿名としてログイン中です。

ログアウト

2015年集計

症例名	病名	症例数
先天性横隔膜ヘルニア (CDH)	胎児腹下バルーン閉塞術	3
下部尿路閉塞 (LUTO)	胎児膀胱鏡下尿路閉塞開放術	1
胎児羊水 (羊水過多)	腹腔-羊水シャント術	1
TRAP sequence (トラップシーケンス)	ラジオ波血流通断術	1
胎児貧血	胎児輸血	1
双胎間輸血症候群 (TTTS)	胎児腹下胎間輸血血管レーザー凝固術	1

匿名

施設別症例数表示画面

症例別年間データ

現在 匿名としてログイン中です。

ログアウト

2015年集計

メンバー別年間集計

症例名	病名	症例数
先天性横隔膜ヘルニア (CDH)	胎児腹下バルーン閉塞術	3
下部尿路閉塞 (LUTO)	胎児膀胱鏡下尿路閉塞開放術	1
胎児羊水 (羊水過多)	腹腔-羊水シャント術	1
TRAP sequence (トラップシーケンス)	ラジオ波血流通断術	1
胎児貧血	胎児輸血	1
双胎間輸血症候群 (TTTS)	胎児腹下胎間輸血血管レーザー凝固術	1

匿名

①クリックで、

②展開

Just another WordPress site

JAPANESE >

Japan Fetal Therapy Group

Home Fetal Conditions Fetal Treatment Center Research Contact

Fetal Conditions Treated - HIDE

- Congenital diaphragmatic hernia (CDH)
- Fetal tachyarrhythmia
- Fetal pleural effusion
- Twin- Twin Transfusion Syndrome (TTTS)
- Twin reversed arterial perfusion sequence (TRAP sequence)
- Fetal anemia
- Congenital cystic adenomatoid malformation (CCAM)
- Lower urinary tract obstruction (LUTO)
- Congenital heart disease
- Myelomeningocele (MMC)

Research

Links

Japan Fetal Therapy Group

A research group that exists to provide scientific verification of the effectiveness and safety of treatment methods for unborn patients in Japan, in addition to promoting the clinical application of fetal therapy.

The organization was founded as part of research undertaken during the fiscal 2007-2009 Health and Labour Science Research Grant research project entitled "Science-Based Research into Clinical Applications of Fetal Therapy" (2007-Clinical Trial-General-009), and is currently part of the fiscal 2011-12 Health and Labour Science Research Grant research project entitled "Clinical Research into Fetal Therapy for arrhythmia" (2011-Clinical Research Promotion-General-004) and the fiscal 2002 Child Health and Development Grant research project entitled "Research into Clinical Applications of Advanced Fetal Diagnosis and Therapy" (24-2)

Copyright © 2014 All Right Reserved.